

NEWS LETTER

福井大学 男女共同参画推進センター 第5号 H25.12発行

平成 25 年度男女共同参画推進センターシンポジウムを開催しました

福井大学男女共同参画推進センターは、男女共同参画推進及び女性研究者支援に関する啓発を目的として11月13日(水)に福井大学アカデミーホールにて平成25年度男女共同参画推進センターシンポジウムを開催し約40名が参加しました。

シンポジウムでは、上田孝典センター長の開会挨拶の後、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授斎藤悦子氏による講演「生活時間調査からみる福井県のワーク・ライフ・バランス」が行われました。まず初めにワーク・ライフ・バランスの考え方、次に福井県と全国の男女別にみる生活時間の違いを統計データ等から詳細に比較され、さらにお茶の水女子大学のワーク・ライフ・バランス実現のための取り組みについて具体的な事例の説明がありました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、企業の女性管理職やNPO法人代表、本学男性研究者をパネリストとして迎え、両立支援、父親の子育て支援等について議論を行いワーク・ライフ・バランスについての意識を深めました。

今後も男女共同参画推進センターは、県内外の関係機関とも連携を深め、啓発活動に努めていきます。



男女共同参画についての意識調査アンケートについて

平成25年9月に教職員を対象にアンケート調査を実施しました。これは、男女共同参画に対する意識の向上及び働きやすい職場環境をつくることを目的として行ったものです。

今回のアンケートにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。アンケート結果については、後日報告させていただきます。是非ご覧ください。

男性教職員も育児支援制度を利用できます！

育児支援制度と聞くと、女性が出産・育児のために利用するイメージがあるかもしれませんが、しかし、家庭で子どもを健やかに育てるためには、お母さんだけでなくお父さんの力も必要です。

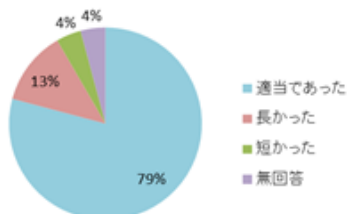
本学では、仕事と子育ての両立を支援するため、各種の育児支援制度を運用しています。一人ひとりの状況にあわせて、ぜひ積極的に利用してください。

各制度の要件等、詳細については人事労務課までお尋ねください。

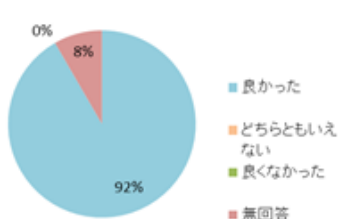
(例) 「子の看護」「男性の育児参加」「出産の付き添い」「育児休業」「育児部分休業」など

平成 25 年度男女共同参画推進センターシンポジウム参加者からのご意見・ご感想

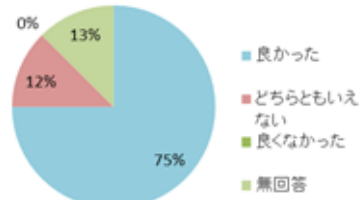
時間の長さについて



講演内容について



パネルディスカッションについて



講演内容についての感想

- * 福井県の実態が他県と比較できて参考になった。ワークのとらえ方を仕事と家事労働を含めることで、新たな気づきが生まれた。これからの指針にしていきたいと思う。(40代・女性・本学教職員)
- * 細かなデータ分析結果を、数値的に現状を見返す契機となりました。(30代・女性・一般の方)
- * 全国と福井では平均でも違いがあり、分かりやすかった。(20代・男性・本学学生)

パネルディスカッションについての感想

- * パネリストの方々、それぞれ進められている仕事がよく分かりました。子育ての大切さを感じました。大学でも男性教員の先生方の育休が進めばいいと思います。(30代・女性・本学教職員)
- * 全般的に「子育て」がキーワードであったように思う。企業、家庭だけでなく、地域の在り方も考えさせられた。(50代・男性・本学教職員)

シンポジウムに対するご要望・ご意見・ご提案

- * 前回のシンポジウムに参加した際にも思いましたが、女性でも社会で活躍されている方がたくさんあり、働き方も様々なのだと感じました。男女とも生活と労働のバランスがうまくいくと、より良い人生になると思いました。(30代・女性・本学教職員)
- * 分かりやすい調査分析から今後の課題を明らかにしていただきました。過重労働(仕事・家事+介護)については同感です。「管理職になりたくない」という人が多くて当然だと思います。ひとりひとりの違った環境にあわせたワーク・ライフ・バランスが大切だと思います。(50代・女性・一般の方)

「県内企業で働く先輩女性との交流会」に参加しました

ふくい女性ネットから県内企業で働く先輩女性が4名参加し、女子学生11名と交流会が開催されました。そこでは、社会人の先輩になる方に、仕事でやりがいを感じたことや家庭との両立など、気軽に質問することができ交流を深めていました。センターからは、取組の案内や、進路選択のひとつとして研究者として活躍されている方について紹介しました。

